

目的 看護学生として1年次に必要な知識・技術・態度を身に付ける。

目標 新しい学習環境に適応ができ、主体的に学習する習慣を身に付けることができる。

細目標	主な内容
1. 自己の学習に対して目的、目標を持ち、自ら学習に取り組むことができる。	1) これまでの自己の学習方法・学習習慣について振り返る。 ①学習アンケートの記載を通して自己を見つめる。 2) 学習習慣を身に付ける。 ①合宿時にプレトレーニングテストを実施し、基礎学力の確認をする。要支援学生を選出し、その後の学習状況を確認する。 ②看護学生プレトレーニングの実施（1回/週 提出：5月末に終了の予定とする） ③プレトレーニング終了後に確認テストを実施し、合宿時のテストとの比較を行う。 ④練成ゼミの実施（1回/週 提出：6月～講義の進捗と合わせて） ⑤提出日に提出できていない学生に助言を行う。 ⑥基礎看護技術に関する国試過去問題（1回/週 提出：練成ゼミ終了後～） ⑦解剖生理学に関する国試過去問題（1回/週 提出：練成ゼミ終了後～）
2. プロジェクト学習を通して、主体的に学習する習慣を身に付ける。また、他者とのディスカッションを通して、学習方法を考えることができる。	1) 「人体マスター！」をプロジェクト学習として取り組む。 ①脳ナビの時間を活用し1年間取り組む。 ②呼吸器系・消化器系・運動器系・循環器系の各器官をグループで担当し、臓器のしくみ・働きを調べ学習と講義とを合わせて理解を深め、担当の臓器を作成し発表する。 2) 学習すること・「わかる」ことの楽しさを感じる。 ①「人体マスター！」の時間には、グループ内・クラス内でのディスカッションや学習方法の情報交換を取り入れる。 ②知識の定着や自己学習が講義や日々のさまざまな学習につながることをわかるよう、 3月⇒東京アカデミー模擬試験（解剖生理学50問）
3. 科目試験の平均点60点代がない	1) 学習支援者に対する支援 ①面接・学習相談（6月・3月の面接を実施、また気がかりな学生については随時実施する。） ②放課後を活用した学習会・長期休業中の学習会の実施 ③合宿時・プレトレーニング終了後に実施する確認テストの結果を参考にし、要支援学生を選出する。 また、科目試験結果も参考とする。